

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点に係る状況)

本校の目的は，準学士課程及び専攻科課程について，学則に定めている（資料 1-1-①-1）。また，準学士課程及び専攻科課程の教育理念，学習・教育目標，養成する人材像も具体的に定めている。特に本校では工学系とビジネス系の 2 つの教育体系を有しており，それぞれの学科と各専攻を通じての養成する人材像を分かりやすく説明し（資料 1-1-①-2），また図示している（資料 1-1-①-3）。さらに，準学士課程の各学科及び専攻科課程の各専攻についても養成する人材像を明確に定めると共に（資料 1-1-①-4），卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力についても，準学士課程及び専攻科課程で具体的に示している（資料 1-1-①-5）。

資料 1-1-①-1

福島工業高等専門学校学則（抜粋）

第 1 章 本校の目的

第 1 条 本校は，教育基本法及び学校教育法に基づき，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第 29 条 専攻科は，高等専門学校における教育の基礎の上に，精深な程度において学際的領域や広い視野に目を向けた高度な専門的学術を教授研究し，もって豊かな教養と人格を備え，広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典：福島工業高等専門学校学則）

資料 1-1-①-2

教育理念、学習・教育目標、養成する人材像

1. 教育理念

国立高専機構法第 3 条の高専機構の目的は「機構は，高専を設置すること等により，職業に必要な専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成すると共に，我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。」である。

福島工業高等専門学校（本校）の教育理念は，この機構の目的に沿って下記の 3 項目を設定した。

- 1) 広く豊かな教養と人間力の育成
- 2) 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 3) 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

2. 学習・教育目標

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- 6) 情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

3. 養成する人材像

本校の準学士課程は、工学系 4 学科とビジネス系 1 学科、専攻科課程は工学系 2 専攻とビジネス系 1 専攻から構成されており、「工学系ービジネス系」の融合したシナジー教育がその特色である。そのため、本校で育てる人材像を以下に列記する。

1) 工学系の学科と専攻

- ①十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
- ②モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
- ③外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者

2) ビジネス系の学科と専攻

- ①管理能力を持ったビジネス系職業人
- ②国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
- ③情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

(出典：平成 12 年度～H17 年度における「自己点検・評価」報告書)

資料 1 - 1 - ① - 3



図 1-1 工学系-ビジネス系シナジー教育で養成する人材像

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

準学士課程の各学科及び専攻科課程の各専攻で養成する人材像

表 1. 1-1 準学士課程の各学科の養成する人材像

学 科	目標と養成する人材像
機械工学科	機械工業のみならず一般産業を含めた広い分野において科学技術の進展に対処できる機械技術者の育成
電気工学科	電気・電子・情報技術を中心として産業界のさまざまな分野で活躍できる技術者の育成
物質工学科	時代のニーズに即した種々の機能性材料を開発、生産する化学、医薬品、食品工業をはじめ、機械、電気、電子工業などの素材技術者の育成
建設環境工学科	建設技術の基礎の上に、自然環境に配慮しながら持続可能な開発や社会基盤施設の建設に対応できるシビルエンジニアの育成
コミュニケーション情報学科	「ビジネス」、「英語」、「情報」に重点を置いたコミュニケーション科学に関する教育・研究により、ビジネス社会の現場で活躍できる人材の育成

表 1. 1-2 専攻科課程の各専攻の養成する人材像

専 攻	目標と養成する人材像
機械・電気システム工学専攻	準学士課程の機械工学科、電気工学科のそれぞれの専門的な基礎の上に、機械設計関連、システム制御関連、電子物性関連および情報関連分野に関するより高度で応用性の高い専門科目を履修する。さらに、技術経営論、ベンチャービジネス論などのビジネス系科目を履修することにより、境界領域分野や高度情報化社会における先端技術の開発や技術移転等にも対応できる「実践的技術プロフェッショナル」の養成をめざす。
物質・環境システム工学専攻	準学士課程の物質工学科、建設環境工学科のそれぞれの専門分野の基礎学力を充実させ、その応用性や専門性を深めさせ、さらに高度な環境工学関連の科目を履修する。さらに、ビジネス系科目を履修することにより、自己の専門領域を超え、環境への影響に配慮しつつ先端技術に柔軟に対応できるスキルを身につけた「実践的技術プロフェッショナル」の養成をめざす。
ビジネスコミュニケーション学専攻	準学士課程のコミュニケーション情報学科の英語、情報、コミュニケーション科学を中心とした社会科学の基礎の上に、経営管理系科目、生産管理系科目、ベンチャー・地域計画学の専門科目を履修する。さらに、工学系科目を履修することにより、工学的知識を獲得し利用できるスキル、国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力、モノづくりの生産ラインに係わるマーケットリサーチ、企画、開発、生産、流通管理、販売の実務能力を併せ持ち、地域に根ざしたグローバルな視点を持つ「実践的ビジネスプロフェッショナル」の養成をめざす。

(出典：平成 12 年度～平成 17 年度における「自己点検・評価」報告書)

卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程

- 1) 豊かな教養と周囲に配慮できる人間性
- 2) 専門分野の基礎知識とそれらの総合的応用能力
- 3) 自ら工夫し、広い視野から新しい発想ができる能力
- 4) 自己を啓発し、課題を分析して解決する能力
- 5) モノづくりやデザインの実践力
- 6) 基礎的なコミュニケーション能力と情報技術を活用したプレゼンテーション能力

専攻科課程

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用した、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

（出典： 運営会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校は、社会に対して担う基本的な役割として準学士課程と専攻科課程の目的を定めている。また、学校としての教育理念や学習・教育目標、課程ごとの養成すべき人材像を工学系とビジネス系の各学科及び各専攻についても具体的に定めているほか、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を準学士課程と専攻科課程で定め、達成しようとしている基本的な成果等を明確にしている。

以上のことから、本校は、高等専門学校としてその目的を明確に定めている。

観点 1-1-②： 目的が、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の目的（前述資料 1-1-①-1 学則（抜粋））は、高等専門学校創設の趣旨である「実践的技術者を養成する高等教育機関」としての責務及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されたものである。また、学校教育法第 70 条の 2 には「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成する」という 2 つの具体的な目的があるが、本校の養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、これらとの関連を明確にして策定されている。

	「深く専門の学芸を教授し」に対応	「職業に必要な能力を育成する」に対応
準 学 士 課 程	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養 2) 工学及びビジネスの幅広い基礎知識を修得し、柔軟に対応する能力	卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい技術を創造する能力 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決や課題探求する能力 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力
専 攻 科 課 程	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力	修了時に身に付けるべき学力や資質・能力のうち 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい産業技術を創造できる能力 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力 6) 情報技術を活用した、国際社会で必要なコミュニケーション能力及びプレゼンテーション能力

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的は、高等専門学校創設の趣旨及び学校教育法上の高等専門学校の目的を踏まえて策定されている。また、養成する人材像や卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学校教育法上の高等専門学校の目的との対応を明確にした上で策定されている。

以上のことから、本校の目的は、学校教育法第 70 条の 2 に規定された、高等専門学校一般に求められる目的からはずれるものでない。

観点 1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的はウェブサイトに掲載されているほか（資料 1-2-①-1）、学生便覧にも掲載されている（資料 1-2-①-2）。

教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、学生便覧に掲載するほか（資料 1-2-①-3）、常に学生や教職員の目に触れるように各教室やゼミ室及び会議室等に掲示して（資料 1-2-①-4）、その周知徹底を図っている。

資料 1-2-①-1

ようこそ！ 国立福島工業高等専門学校へ

校長 奈良 宏一



福島高専の教育理念

1. 広く豊かな教養と人間力の育成
2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

福島高専の学習・教育目標

1. 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
3. 工学系科目-ビジネス系科目の協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
4. 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を身につける。
5. モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
6. 情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

（出典：本校ウェブサイト）

福島工業高等専門学校学則（抜粋）

第 1 条 本校は、教育基本法及び学校教育法に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

第 29 条 専攻科は、高等専門学校における教育の基礎の上に、精深な程度において学際的領域や広い視野に目を向けた高度な専門的学術を教授研究し、もって豊かな教養と人格を備え、広く産業の発展に寄与する人材を育成することを目的とする。

（出典：福島工業高等専門学校学則）

教育理念，学習・教育目標，養成する人材像

1. 教育理念

国立高専機構法第 3 条の高専機構の目的は「機構は、高専を設置すること等により、職業に必要な専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成すると共に、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。」である。

福島工業高等専門学校（本校）の教育理念は、この機構の目的に沿って下記の 3 項目を設定した。

- 1) 広く豊かな教養と人間力の育成
- 2) 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 3) 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

2. 学習・教育目標

高専機構の目的及び本校の教育理念に基づき、下記の「学習・教育目標」を 6 項目設定した。

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- 3) 工学系科目ービジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探究する能力を身につける。
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- 6) 情報技術を活用して、国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

3. 養成する人材像

本校の準学士課程は工学系 4 学科及びビジネス系 1 学科，専攻科課程は工学系 2 専攻及びビジネス系 1 専攻から構成されており，「工学－ビジネス」の融合したシナジー教育が特色である。そのため，本校の養成する人材像を以下に列記する。

1) 工学系の学科と専攻

- ① 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し，知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
- ② モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
- ③ 外国語能力を備え，ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者

2) ビジネス系の学科と専攻

- ① 管理能力を持ったビジネス系職業人
- ② 国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
- ③ 情報技術を備え，工学的知識も獲得した実践的職業人

4. 卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程

- 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識を修得し，柔軟に対応する能力
- 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し，新しい技術を創造する能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し，問題解決や課題探求する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力

専攻科課程

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に，融合・複合的な専門知識を修得し，知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目－ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により，複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し，問題解決のみならず課題探究する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用した，国際社会で必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

（出典：福島工業高等専門学校平成 19 年度学生便覧）

「教育理念、学習・教育目標、養成する人材像、卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」の教室掲示

教育理念

- 1) 広く豊かな教養と人間力の育成
- 2) 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
- 3) 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

養成する人材像

- 1) 工学系の学科と専攻
 - ① 分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
 - ② モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
 - ③ 外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者
- 2) ビジネス系の学科と専攻
 - ① 理能力を持ったビジネス系職業人
 - ② 国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
 - ③ 情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力

準学士課程

- 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識を修得し、柔軟に対応する能力
- 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい技術を創造する能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決や課題探求する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力

専攻科課程

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力
- 3) 工学系科目-ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用した、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

学習・教育目標

- 1) 地球的視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
- 3) 工学系科目-ビジネス系科目の協働（シナジー）効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力を身につける。
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
- 6) 情報技術を活用して、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

（出典：各教室への掲示）

本校では、平成 19 年 4 月下旬に、準学士課程や専攻科課程の全学生及び全教職員に対して、本校の教育理念、学習・教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等の周知状況についてのアンケート調査（資料 1 - 2 - ① - 6 ~ 8）を実施した。その結果によれば、学生については約 90%以上、教職員については約 70%以上が「知っている」と回答している。なお、このアンケート調査において「あまり知らない」及び「全く知らない」と回答した教職員については、その後研修をを実施してその周知徹底を図る体制を作っている。

教職員に対するアンケート調査



認証評価 基準 1 についての調査（教職員用）

この調査は、認証評価の基準 1 の観点 1-2-①における「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」についての周知の程度を把握するためのものです。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(1) あなたの氏名をお書き下さい。

質問 1 あなたの所属学科・課にマークしてください。

(2)

- 1: 機械 2: 電気 3: 物質 4: 建設
- 5: コミ 6: 一般 7: 総務課 8: 学生課
- 9: 技術部

質問 2 以下の①～⑨の質問の回答については、次の選択肢のなかからあてはまるもの 1 つにマークしてください。

(3)

	認知度			
	よく知っている	だいたい知っている	あまり知らない	全く知らない
① あなたは、本校の「教育理念」を知っていますか。	:	:	:	:
② あなたは、本校の「学習・教育目標」を知っていますか。	:	:	:	:
③ あなたは、工学系学科と専攻の「養成する人材像」を知っていますか。	:	:	:	:
④ あなたは、ビジネス系学科と専攻の「養成する人材像」を知っていますか。	:	:	:	:
⑤ あなたは、準学士課程各学科の「養成する人材像」を知っていますか。	:	:	:	:
⑥ あなたは、専攻科課程各専攻の「養成する人材像」を知っていますか。	:	:	:	:
⑦ あなたは、準学士課程の「卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力」を知っていますか。	:	:	:	:
⑧ あなたは、専攻科課程の「修了時に身に付けるべき学力や資質・能力」を知っていますか。	:	:	:	:





質問3 どのようなときに本校の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容を確認していますか。あてはまるものすべてにマークしてください。

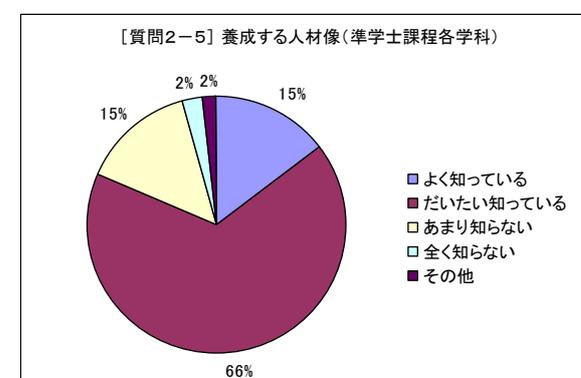
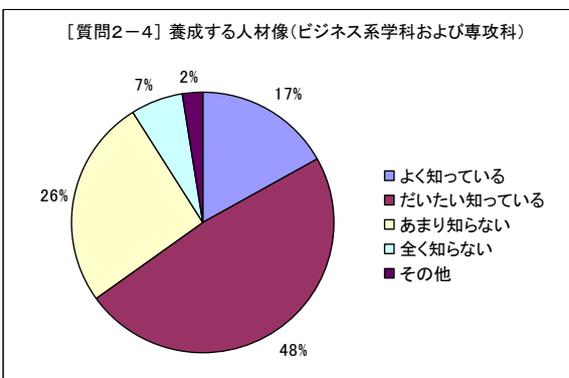
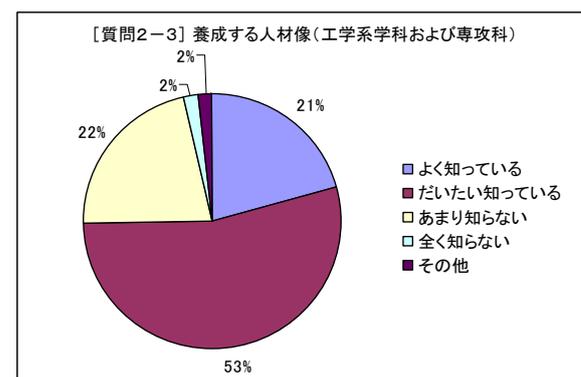
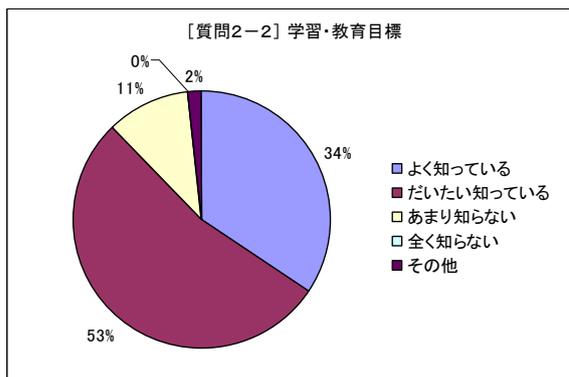
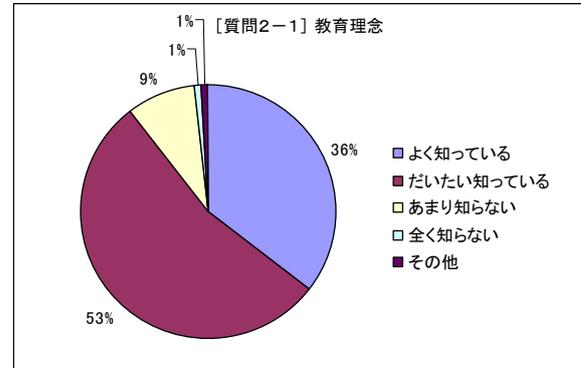
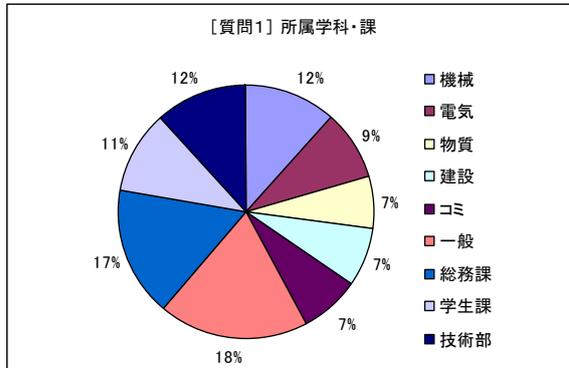
(4)

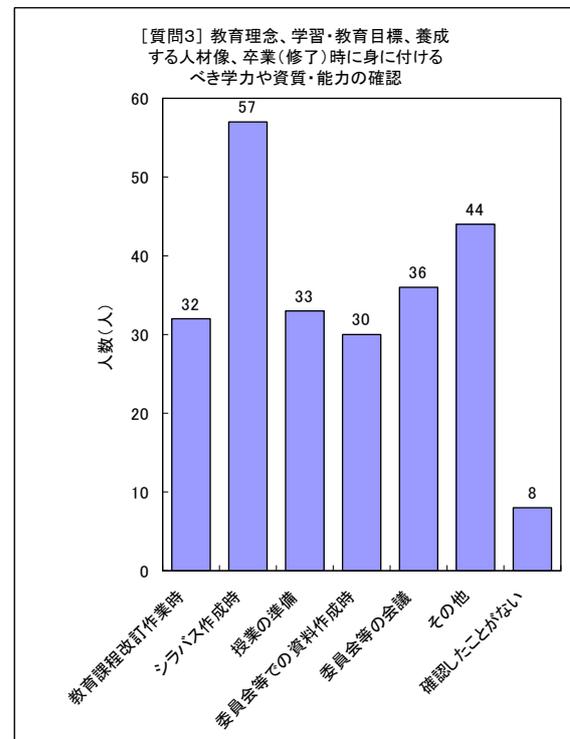
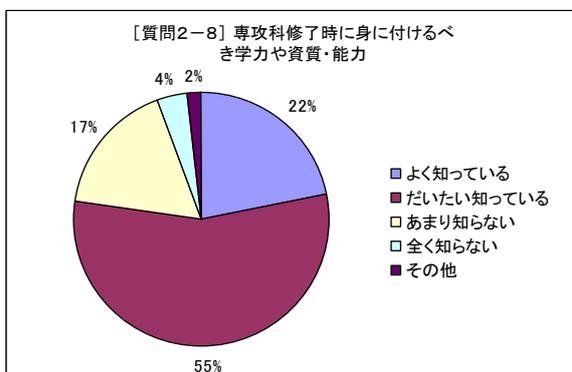
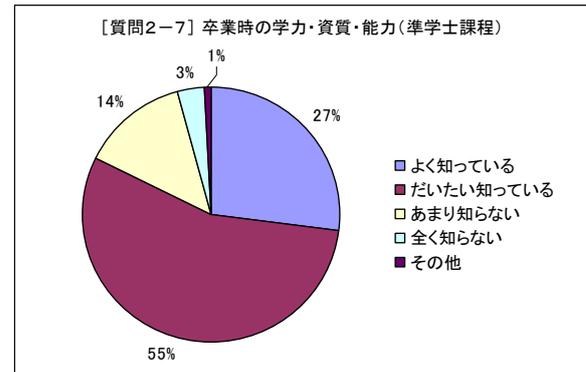
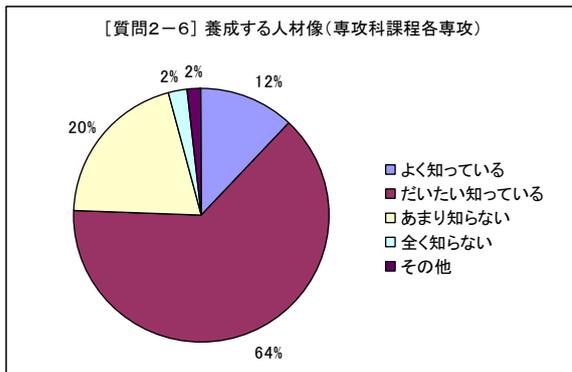
- 1: 教育課程改訂作業時
- 2: シラバス作成時
- 3: 授業の準備
- 4: 委員会等での資料作成時
- 5: 委員会等の会議
- 6: その他
- 7: 確認したことがない

質問4 「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容で修正・追加した方がよい点があればお答え下さい。

(5)







(出典：認証評価委員会資料)

準学士課程の学生に対するアンケート調査



準学士課程

学生の福島高専の「教育理念」等に対する理解度についてのアンケート調査

この調査は、学生諸君が福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度理解しているかを調べるためのアンケートです。率直に教えてください。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗り潰して回答してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

質問 1 所属する学年にマークしてください。

- (1)
- | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 1年 | <input type="checkbox"/> 2: 2年 | <input type="checkbox"/> 3: 3年 | <input type="checkbox"/> 4: 4年 | <input type="checkbox"/> 5: 5年 |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

質問 2 所属する学科にマークしてください。

- (2)
- | | | | | |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 機械 | <input type="checkbox"/> 2: 電気 | <input type="checkbox"/> 3: 物質 | <input type="checkbox"/> 4: 建設 | <input type="checkbox"/> 5: コミ |
|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|

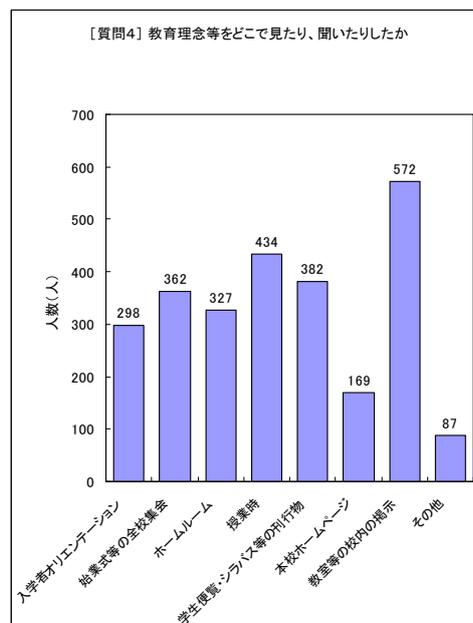
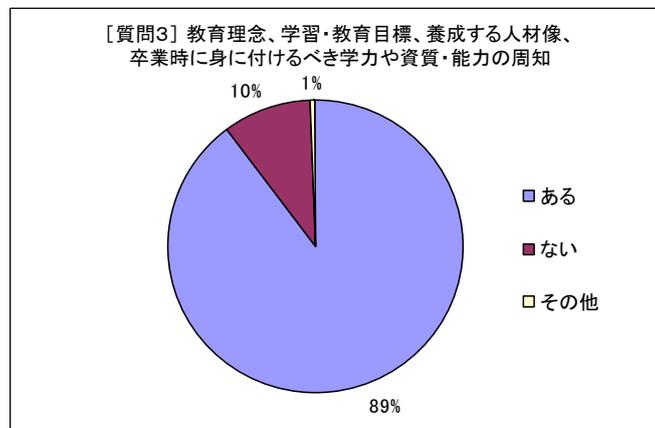
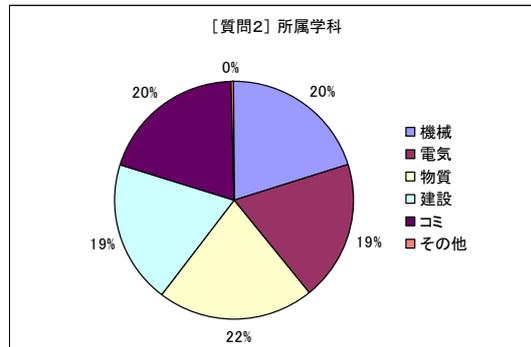
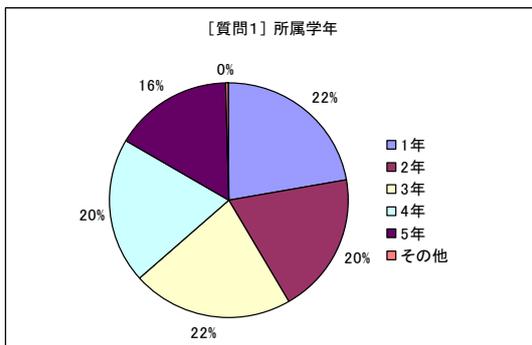
質問 3 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

- (3)
- | | |
|--------------------------------|--------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: ある | <input type="checkbox"/> 2: ない |
|--------------------------------|--------------------------------|

質問 4 質問 3 で「1. ある」と答えた学生だけに聞きます。それらを何で(どこで)見たり、聞いたりしましたが、あてはまるものすべてにマークしてください。

- (4)
- | | |
|--|---------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 1: 入学者オリエンテーション | <input type="checkbox"/> 2: 始業式等の全校集会 |
| <input type="checkbox"/> 3: ホームルーム | <input type="checkbox"/> 4: 授業時 |
| <input type="checkbox"/> 5: 学生便覧・シラバス等の刊行物 | <input type="checkbox"/> 6: 本校ホームページ |
| <input type="checkbox"/> 7: 教室等の校内の掲示 | <input type="checkbox"/> 8: その他 |





(出典：認証評価委員会資料)

専攻科課程の学生に対するアンケート調査



専攻科課程

学生の福島高専の「教育理念」等に対する理解度についてのアンケート調査

この調査は、学生諸君が福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「修了時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度理解しているかを調べるためのアンケートです。率直に答えてください。

選択式の回答は、該当箇所のマークを塗り潰して回答してください。

この用紙は機械で処理します。回答欄以外に書き込みをしたり、用紙を汚したり、折り目を付けたりしないように注意してください。

質問 1 所属する学年にマークしてください。

(1)

1: 専1年

2: 専2年

質問 2 所属する専攻にマークしてください。

(2)

1: 機械・電気

2: 物質・環境

3: ビジコミ

質問 3 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「修了時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか。あてはまるもの 1 つにマークしてください。

(3)

1: ある

2: ない

質問 4 質問3で「1. ある」と答えた学生だけに聞きます。

それらを何で(どこで)見たり、聞いたりしましたが、あてはまるものすべてにマークしてください。

(4)

1: 入学者オリエンテーション

2: 始業式等の全校集会

3: ホームルーム

4: 授業時

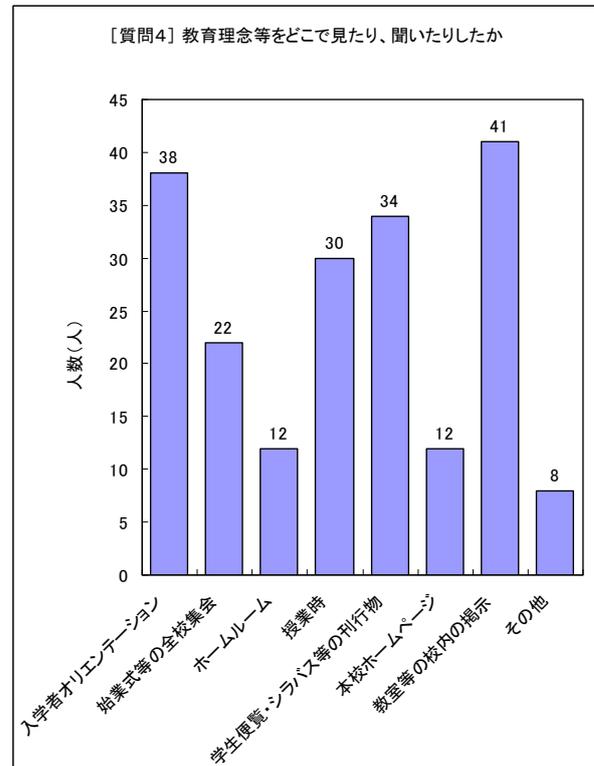
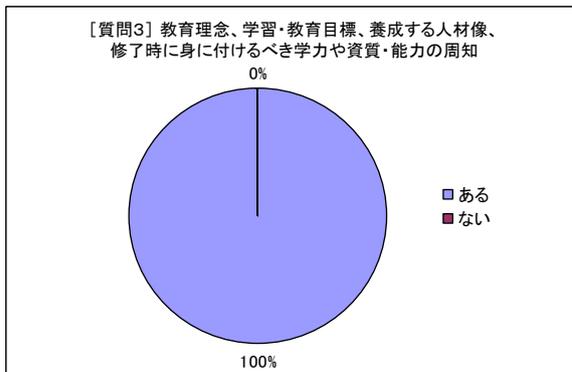
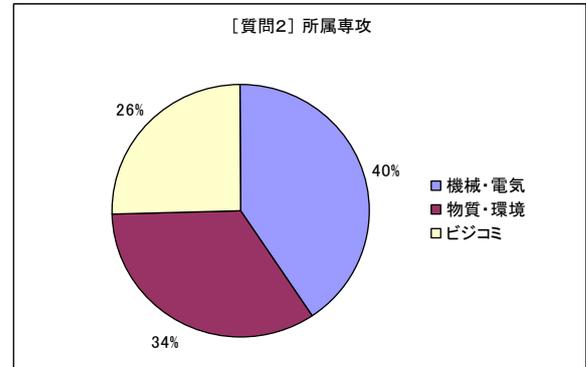
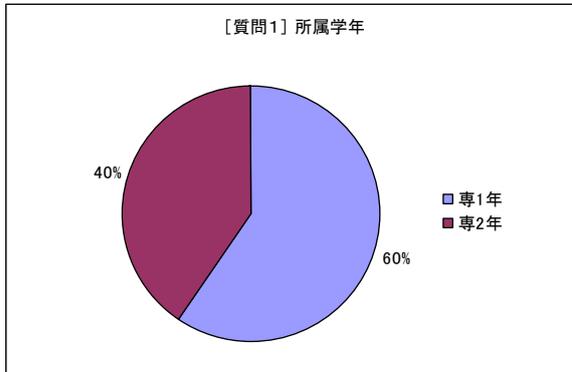
5: 学生便覧・シラバス等の刊行物

6: 本校ホームページ

7: 教室等の校内の掲示

8: その他





(出典：認証評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的や教育理念、学習・教育目標等を掲載した学校要覧や学生便覧等を教職員及び学生に配布し説明するほか、各教室内に掲示してその周知を図っている。また、教員に対しては種々の会議や研修等の機会に説明することにより周知徹底を図っている。平成 19 年度初めに学生や教職員の周知状況を把握するため行ったアンケート調査の結果では、学生の約 90%以上及び教職員の約 70%以上が「知っている」との回答結果が得られている。

以上のことから、本校ではその目的、教育理念等が、学校の構成員に概ね周知されている。

観点 1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校では、その教育理念や学習・目標等をウェブサイト(資料 1-2-①-1)に掲載することにより、社会に対して公表している。また、本校の学校要覧(資料 1-2-②-1)や夏休み期間に実施する一日体験入学や中学校や高校へ出向いての学校説明会などを通して、学校の目的や教育理念等を説明している。また、平成 16 年 10 月から平成 19 年 3 月まで 30 回に亘って連載された地元新聞記事「福島高専の挑戦」(資料 1-2-②-2~3)等を通して、広く社会に公表している。

資料 1-2-②-1

福島工業高等専門学校の教育理念、学習・教育目標及び養成する人材像

教育理念

1. 広く豊かな教養と人間力の育成
2. 科学技術の基礎的素養と創造性及び実践性の育成
3. 固有の才能の展開と国際的な視野及びコミュニケーション能力の育成

学習・教育目標

1. 地球の視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うために、倫理・教養を身につける。
2. 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる能力を身につける。
3. 工学系科目ービジネス系科目の協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力を身につける。
4. 情報収集や自己学習を通して常に自己を高め、問題解決のみならず課題探求する能力を身につける。
5. モノづくりやシステムデザイン能力を養うことにより、創造的実践力を身につける。
6. 情報技術を活用して、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力を身につける。

養成する人材像

本校の準学士課程は工学系4学科およびビジネス系1学科、専攻科課程は工学系2専攻およびビジネス系1専攻から構成されており、「工学ービジネス」の融合したシナジー教育が特色である。そのため、本校で育てる人材像を列記する。

1. 工学系学科と専攻
 - ① 十分な基礎学力の上に専門知識を修得し、知識創造の時代に柔軟に対応できる技術者
 - ② モノづくりと環境保全の調和に配慮できる技術者
 - ③ 外国語能力を備え、ビジネス系の知識も獲得した実践的技術者
2. ビジネス系学科と専攻
 - ① 管理能力を持ったビジネス系職業人
 - ② 国際社会に対応したビジネスコミュニケーション能力を持った職業人
 - ③ 情報技術を備え、工学的知識も獲得した実践的職業人

準学士課程の各学科で養成する人材像

学 科	目標と養成する人材像
機 械 工 学 科	機械工業のみならず一般産業を含めた広い分野において科学技術の進展に対処できる機械技術者の育成
電 気 工 学 科	電気・電子・情報技術を中心として産業界のさまざまな分野で活躍できる技術者の育成
物 質 工 学 科	時代のニーズに即した種々の機能性材料を開発、生産する化学、医薬品、食品工業をはじめ、機械、電気、電子工業などの素材技術者の育成
建設環境工学科	建設技術の基礎の上に、自然環境に配慮しながら持続可能な開発や社会基盤施設の建設に対応できるシビルエンジニアの育成
コミュニケーション情報学科	「ビジネス」、「英語」、「情報」に重点を置いたコミュニケーション科学に関する教育・研究により、ビジネス社会の現場で活躍できる人材の育成

(出典：国立福島工業高等専門学校要覧 2007)

(第三種郵便物認可)

いわき民報 (夕刊) 平成16年(2004年)10月26日 (火曜日) 第17843号 (12)



福島高専の生い立ちと現況

国立高等専門学校(高専)は、昭和37年から39年にかけて、当時の高度成長期に対応して、中堅の実践的技術者の養成を目的として、まず17校が設置された高等教育機関である。以後、各県に(ほぼ)1校ずつ設置されてきており、現在では北海道から沖縄まで、55校に及んでいる。

福島高専(開校当時は平高専と称した)も、一母校として昭和37年に、いわき市(旧平市)に設置された。福島県内における唯一の国立の工学系高等教育機関として、実践的技術者の育成に貢献してきた。開校以来40余年が経過し、その間、5500人を超える有為な人材を世に送り出してきた。

本校は、JRいわき駅前からバスで10分程の距離にありながら、緑に恵まれた環境にある。現在の5学科(5年制)、専攻科の3専攻(2年制)から構成されており、1050人の学生が在籍している。平成16年4月には、高専の一層の活性化、教育研究の高度化を目指して、全国55高専を一つの組織とする独立行政法人国立高等専門学校機構(高専機構)が設置された。福島高専もメンバーの一員として、新たな出発をした。すなわち、「新生福島高専」の誕生である。

教育理念

教育理念は、高専機構法第3条に「職業に必要な実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成するとともに、我が国高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする。」と改められた。

従来の「中堅技術者育成」を教育理念とする内容を、より高度化して包括的な内容の中に、特に「創造的な人材を育成する」という目標が新たに盛り込まれている。これを受けて福島高専は、教育目標を次の3項目にまとめ、人材育成に励むこととした。

- ・人間力の育成
- ・基礎学力及び創造的実践力の育成
- ・コミュニケーション能力と国際的視野の育成

教育システムとしての特徴

福島高専には、エンジニアになるための機械工学科、電気工学科、物質工学科、建設環境工学科の工学系4学科と、ビジネス系のコミュニケーション情報学科がある。コミュニケーション情報学科は、英語、コンピュータ、デザイン、経営学、経済学、さらにビジネスに必要とされる実践的な知識や技術を学ぶことができる。

もともと高専は、15歳からの5年一貫(高校3年+大学2年まで)の教育であった。大学入試の受験競争が無い分、のびのびと自分のペースで、勉学や課外活動に集中できるので、学力だけでなく人間力も養成されるようになっている。

本校の専門学科教員の約70%が、大学教員と同様に博士(工学・理学・経済学等)の学位を持つ研究者なので、教員自身の研究成果や研究経

福島高専の挑戦

独立行政法人化における教育方針と地域貢献

1

福島工業高等専門学校長

安久 正紘

験を踏まえた教育が行われている。専門の研究開発における学生固有の才能の開花を、大学生よりも早期に促すことができる。

本校は、多様な教育システムなど、学生の個性を伸ばす教育を行っている。5年修了後には、就職率100%の恵まれた環境の中で50~60%の学生が社会人となり、40~50%の学生が専攻科入学、あるいは国立大学3年次への編入学をほとんど実現している。

専攻科の設置

平成16年4月に、専攻科が設置された。専攻科には、工学系の2専攻、機械・電気システム工学専攻(入学定員8名)、物質・環境システム工学専攻(入学定員8名)と文理融合系のビジネスコミュニケーション学専攻(入学定員4名)があり、現在1期生(1年生)が在籍している。

2年間の教育を修了すれば、工学系では「学士(工学)」、ビジネス系では「学士(経営学)」が取得可能になった。このように資格の点で大学と同等でありながら、専攻科の学費は、国公立大学の半分で済むという大きな利点がある。専攻科は、少数教育を充実させた国立大学のミニ学部ともいえる。

つまり従来、高校3年+短大2年=5年であった福島高専が、専攻科設置により、一部、高校3年+大学4年=7年になったのである。

地域貢献・産官学連携

教育・研究の高度化や活性化、ならびに地域貢献を目指して、福島高専の教育および技術シーズを地域へ積極的に提供しようになった。両シーズ集は、本校ホームページといわき商工会議所のホームページにも掲載されており、多様な要望に応じたい。

県内の全大学および福島高専で構成された福島県高等教育協議会において、単位互換や研究交流が可能になった。

特に近隣の福島大学、茨城大学との教育(単位互換、編入学、大学院推薦入学等)および研究交流(共同研究)を積極的に推進している。地域産業の活性化のため、地方公共団体および民間企業と積極的に連携し、シーズおよびニーズのネットワーク構築を図っている。



高専アラカルト

先生は「教授」

高専は校長、教授20名、助教授28名、講師10名、助手11名および事務系職員40名の総勢128名で構成されている。

教員の採用には公募制を導入し、研究業績・学位取得・模範授業・面接などにより総合評価を行い、民間企業、大学、研究機関などの多様な勤務経験を持つ教員を採用し、各専門に適した教育を行っている。

生徒は「学生」

高専生は大学と同じ高等教育機関に所属しているため「学生」と呼ばれ、一方的な受身の立場で勉強するのではなく、自発・主体的勉強

シーズとニーズ

・課外活動をするなど求められている。

「シーズ」は、高専が有する研究の成果や技術あるいは教育に関する内容・方法・技術などを、言い換えること「高専の知的・技術的資産や財産のこと」であり、「ニーズ」は、社会からの要望で、具体的には「地域社会や産業が求めていること」などである。例えば、地域モノづくりへの貢献として「福島県の中学生によるモノづくりロボット競技会」など、地域産業への協力として「新しい材料の開発」、「環境問題へのアプローチ」、「技術開発に関するマネジメント」など多彩な分野に展開している。専攻科の研究でも、地域に密着したテーマを取りあげ、諸問題の解決を行っている。

(出典: 「いわき民報」新聞掲載記事)

(11) (第三種郵便物認可) い わ き 民 報 (夕刊) 平成19年(2007年)3月27日(火曜日) 第18556号



専攻科「特別研究」のいわき市生涯学習プラザでの公開発表会

▶ 福島高専の果たす役割 ◀
—地域により密着した高専を目指して—

平成16年度に独立行政法人高専機構となると同時に、本校に専攻科が設立され、13年が経過しました。教育の改革を目指し「個性化・活性化・教育の更なる高度化」を掲げて邁進しています。本校の教育理念に基づいた教育、さらには地域に密着した教育として、

- 1) 地域からの要望に応えられる教育、
- 2) 地域産業等の活性化へ繋がる研究と開発、
- 3) 地元への専攻力ある人材供給、などを重視して国立高等教育機関としての役割を果たしてきております。

さらなる教育・研究の高度化を図るため、専攻科教育も軌道に乗り、今年で第2期生を修了させましたが、全員が「学士」を取得しました。更には特別研究の成果を全学生が学会等で発表を行い、一般的な大学よりも充実した研究・教育を実施していると自負しております。この成果を、地域へ還元することが、本校の果たす役割の一つと考えております。

▶ 卒業(修了)時に身に付けるべき
学力や資質・能力 ◀

○本科(理学士課程)を卒業する時に身に付けるべき内容を定めました。

- 1) 人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識を修得し、業教に対応する能力
- 3) 複眼的な視野を持って自ら工夫し、新しい技術を創造する能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決や課題探求する能力
- 5) モノづくりやデザイン能力を生かした創造的実践力
- 6) 情報技術を活用したプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力

○専攻科課程を修了する時に身に付けるべき内容を定めました。

- 1) 地元の視野から人や社会や環境に配慮できる能力を養うための倫理・教養
- 2) 工学およびビジネスの幅広い基礎知識の上に、融合・複合的な専門知識を修得し、知識創造の時代に業教に対応できる能力
- 3) 工学系科目-ビジネス系科目の協働(シナジー)効果により、複眼的な視野を持って自ら工夫して新しい産業技術を創造できる能力
- 4) 情報収集や自己学習を通して常に自己を啓発し、問題解決のみならず課題探求する能力
- 5) モノづくりやシステムデザイン能力を生かした創造的実践力

福島高専の挑戦

「個性化・活性化」教育のさらなる高度化へ邁進

30

6) 情報技術を活用した、国際社会に必要なコミュニケーション能力およびプレゼンテーション能力

▶ 専攻科のさらなる充実 ◀

専攻科は少人数教育による充実した講義、マンツーマンによる特別研究の実施、工学系の学生には「経営の分かるエンジニア」、ビジネス系の学生には「技術の分かるビジネスマン」の教育をしております。企業では専攻力のある人材を望んでおります。従来からインターシップを実施しておりますが、この制度を改善し、高専と企業で学生と一緒に教育する仕組みを構築させ、学生を1~数カ月間企業で実務体験(COOP教育)させることで、職業人に相応しい人材育成を実施したいと考え、検討を始めました。また、特別研究では地域に根ざした教育と地域連携を深めるため、積極的に研究課題を企業等から提案・発掘し、共同研究体制を確たるものにならねと願っています。

学生が2年間在籍中に学会等で発表する件数は約1.5件で、国立大学の学部学生と比較しても圧倒的に多く、探究心と創造力の向上が得られた結果であると理解しています。専攻科学生総定員は20名ですが、平成19年度入学予定者は28人と増加しました。現教員体制から判断して定員枠を40名まで拡大したいと考えています。

▶ 外部評価による教育の高度化 ◀

外部の有識者・学位授与機構・学会等による教育や管理運営の適正化の評価を毎年のように受審し、改善に伴う教育の高度化を実施しております。

これまで、平成17年度には自己点検評価、本年度は日本技術者教育認定機構(JABEE)による審査を受け、高く評価されてきました。平成18年度には認証評価、平成21年度には専攻科設置5年経過後の教育の評価を学位授与機構から受ける予定です。これらの評価・改善を繰り返して教育のさらなる向上を図り、教育の高度化を前進させます。

▶ 福島高専のさらなる挑戦 ◀

少子化現象に対応できる人材育成に対し、本校では下記のことについて検討しています。

- 1) 入学希望者への魅力ある改革
- 2) 新たな横断的学科群などによる教育の充実
- 3) 工学系-ビジネス系によるMOT教育(技術経営)の充実
- 4) 地域に密着した実証的課題の解決を通じた学生の創造力の育成
- 5) 京通りと北茨城圏との地域連携によるCOOP教育の実現
- 6) 専攻科における大学との社会人博士課程の共同教育の実現

これらを早期に実現させますので、今後ともご支援ください。

福島工業高等専門学校
文部科学大臣賞受賞
教員表彰

国立高等専門学校
文部科学大臣賞受賞

平成18年度の教員表彰で、本校専攻科校長補佐佐東信司が、専攻科教育の発展に貢献した功績を認められ、文部科学大臣賞を受賞しました。

本報は、専攻科の学生生活、専攻科研究の発展、専攻科の相互評価、専攻科の発展、これらによって総合的に評価されること、特に、創設以来、専攻科の発展に貢献した功績を認められ、教育界に貢献した功績を評価しました。

最終回

校長 長 安久 正紘

校長補佐 佐東 信司

(出典：「いわき民報」新聞掲載記事)

本校の平成16~18年度卒業(修了)生及び本校卒業生の就職企業等学外者に対しても、平成19年4月下旬から5月初めにかけて、本校の教育理念や学習・教育目標、養成する人材像及び卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力等の周知状況に関するアンケート調査(資料1-2-②-4~5)を実施した。その結果によれば、卒業(修了)生については回答者の約80%以上、また企業等学外者については回答者の約70%以上が「知っている」と回答している。

以上のことから、本校の目的や教育理念等が社会に対して広く公表され、周知されている。

卒業（修了）生に対するアンケート調査



卒業生用

福島高専の教育活動に関するアンケート調査

この調査は、福島高専の教育活動について、広く社会の方からのご意見を伺い、本校の教育の質の向上、改善のための参考とさせて頂くものです。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

質問1 あなたが最終的に卒業（修了）した学科（専攻）について、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (1) 準学士課程（本科5年生）
- 1: 機械工学科
 - 2: 電気工学科
 - 3: 物質工学科（旧工業化学科）
 - 4: 建設環境工学科（旧土木工学科）
 - 5: コミュニケーション情報学科
- (2) 専攻科課程
- 6: 機械・電気システム工学専攻
 - 7: 物質・環境システム工学専攻
 - 8: ビジネスコミュニケーション学専攻

質問2 あなたの年齢について、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (3)
- 1: 20～24歳
 - 2: 25～29歳
 - 3: 30～34歳
 - 4: 35～39歳
 - 5: 40～44歳
 - 6: 45～49歳
 - 7: 50～54歳
 - 8: 55歳～

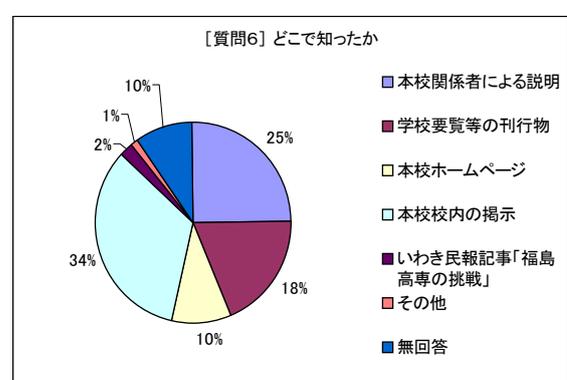
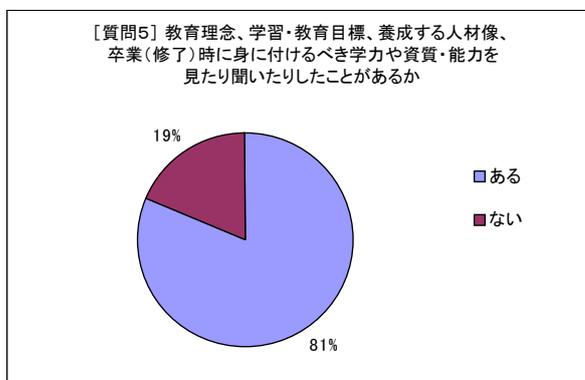
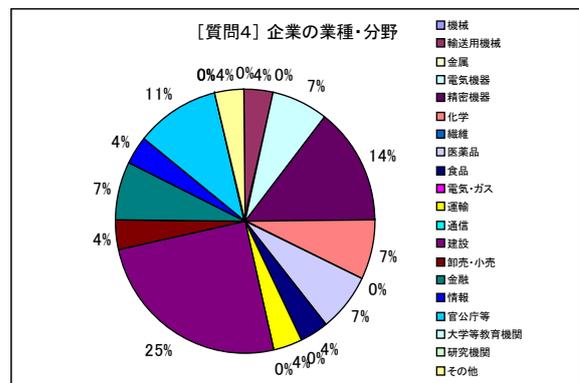
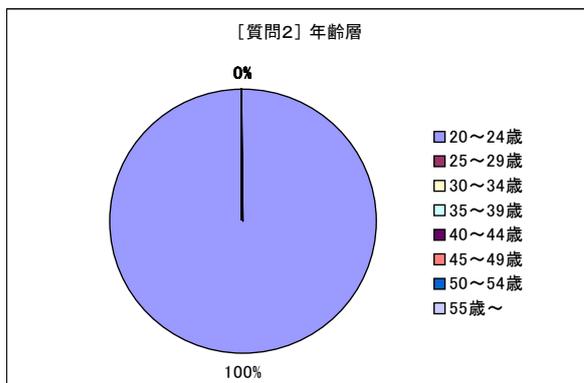
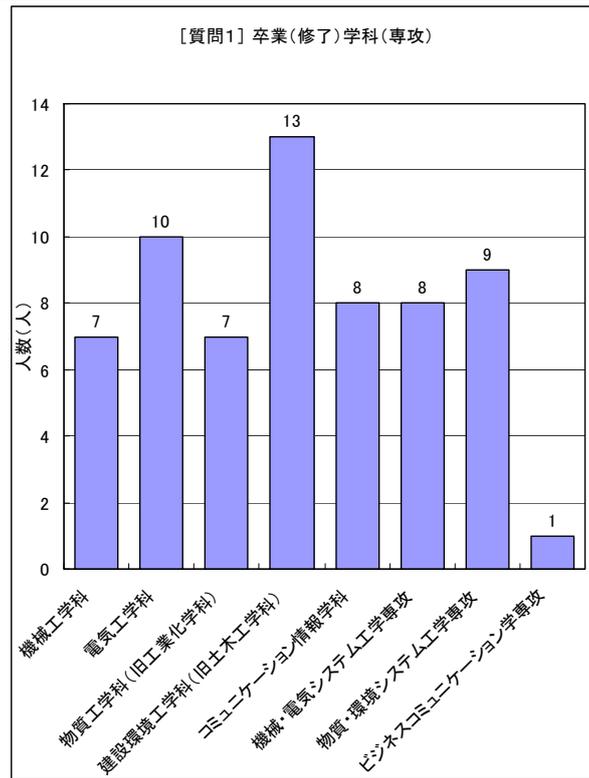
質問3 現在、あなたは何をされていますか。

- (4)
- 1: 企業等に勤務
 - 2: 大学等の学生
 - 3: 無職
 - 4: その他

質問4 質問3で「1. 企業等に勤務」とお答えになった方だけに伺います。現在、あなたが所属している業種・分野について、あてはまるもの1つにマークしてください。

- (5) 製造業
- 1: 機械
 - 2: 輸送用機械
 - 3: 金属
 - 4: 電気機器
 - 5: 精密機器
 - 6: 化学
 - 7: 繊維
 - 8: 医薬品
 - 9: 食品
 - 11: 電気・ガス
 - 12: 運輸
 - 13: 通信
 - 14: 建設
 - 15: 卸売・小売
 - 16: 金融
 - 17: 情報
 - 19: 官公庁等
 - 20: 大学等教育機関
 - 21: 研究機関
 - 22: その他





(出典：認証評価委員会資料)

企業等学外者に対するアンケート調査



企業等学外者用

福島高専の教育活動に関するアンケート調査

この調査は、福島高専の教育活動について、広く社会の方からのご意見を伺い、本校の教育の質の向上、改善のための参考とさせて頂くものです。ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

質問 1 貴社(貴機関)の業種・分野について、あてはまるもの 1 つにマークしてください。

- (1)
- | | | | |
|----------|-------------|----------|---------|
| 1: 機械 | 2: 輸送用機械 | 3: 金属 | 4: 電気機器 |
| 5: 精密機器 | 6: 化学 | 7: 繊維 | 8: 医薬品 |
| 9: 食品 | 10: 電気・ガス | 11: 運輸 | 12: 通信 |
| 13: 建設 | 14: 卸売・小売 | 15: 金融 | 16: 情報 |
| 17: 官公庁等 | 18: 大学等教育機関 | 19: 研究機関 | 20: その他 |

質問 2 貴社(貴機関)に採用いただいている(入学させていただいている)本校卒業(修了)生の出身学科(専攻)にあてはまるものすべてにマークしてください。

- (2) 準学士課程(本科5年生)
- | | |
|------------------|--------------------|
| 1: 機械工学科 | 2: 電気工学科 |
| 3: 物質工学科(旧工業化学科) | 4: 建設環境工学科(旧土木工学科) |
| 5: コミュニケーション情報学科 | |
- (3) 専攻科課程
- | | |
|---------------------|------------------|
| 6: 機械・電気システム工学専攻 | 7: 物質・環境システム工学専攻 |
| 8: ビジネスコミュニケーション学専攻 | |

ここからの質問は、福島高専の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」をどの程度ご理解頂いているかを把握させて頂くとともに、これらの内容についての改善意見を伺います。

質問 3 本校が掲げている「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」を見たり、聞いたりしたことがありますか、あてはまるもの 1 つにマークしてください。

- (4)
- | | |
|-------|-------|
| 1: ある | 2: ない |
|-------|-------|





質問 4 質問 3 で「 1. ある」とお答えになった方のみ伺います。
それらを何で(どこで)見たり、聞いたりしましたが、あてはまるものすべてにマークしてください。

(5)

- 1: 本校関係者による説明 2: 学校要覧等の刊行物 3: 本校ホームページ
 4: 本校校内の掲示 5: いわき民報記事「福島高専の挑戦」
 6: その他

質問 5 質問 3 で「 1. ある」とお答えになった方のみ伺います。
本校の「教育理念」、「学習・教育目標」、「養成する人材像」、「卒業(修了)時に身に付けるべき学力や資質・能力」の内容についてどう思われますか、あてはまるもの 1 つにマークしてください。

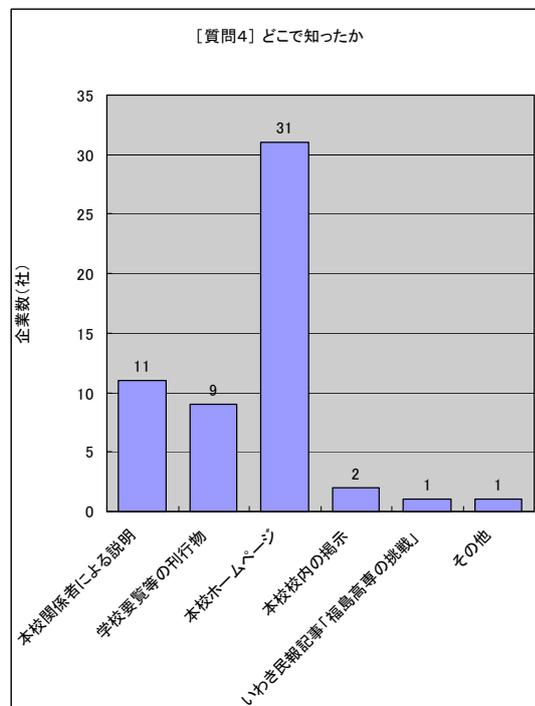
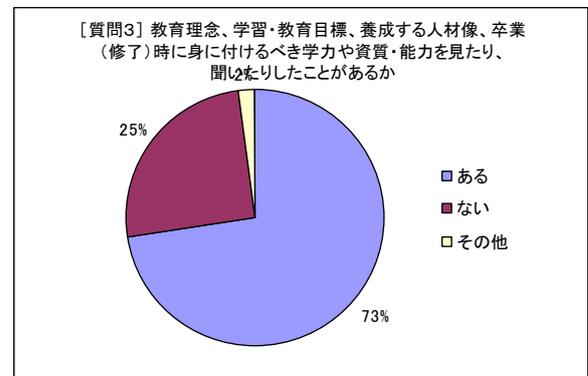
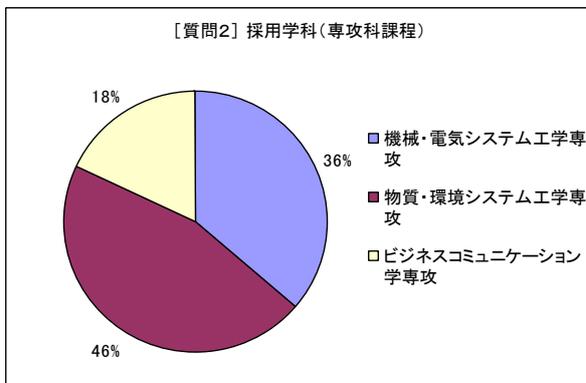
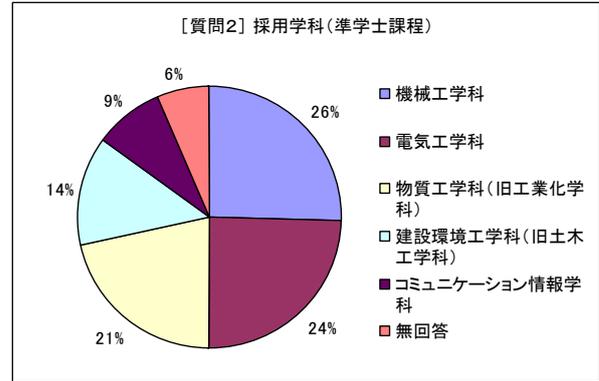
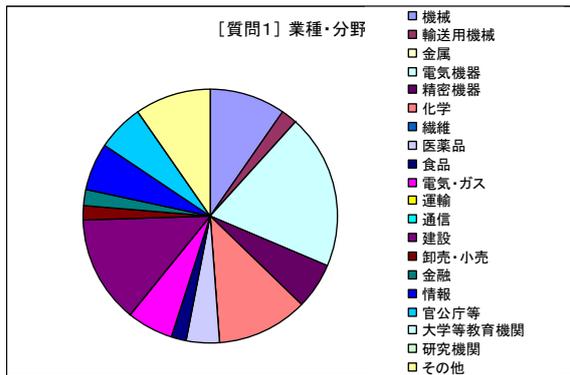
(6)

- 1: このままでよい 2: 直したほうがよい

質問 6 質問 5 で「 2. 直したほうがよい」とお答えになった方のみ伺います。
何をどのように直したらよいかを以下にお書き下さい。

(7)





(出典：認証評価委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

ウェブサイトにも本校の目的等を掲載しているほか、「学校要覧」等にも本校の目的、教育理念、学習・教育目標、養成する人材像及び卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力等を記載しており、一日体験入学や中学校訪問時においても積極的に説明している。また、地元新聞に「福島高専の挑戦」と題する記事を長期にわたって掲載し、広く社会への周知を図っている。さらに、卒業（修了）生や企業等学外者への学校の目的や教育理念等の周知度に関するアンケート調査を行い、その結果では回答者の約7割以上が「知っている」との回答を得ている。

以上のことから、本校の目的は、社会に対して広く公表されている。

(2) 優れた点および改善を要する点

【優れた点】

- ・教職員、学生に加えて卒業（修了）生や企業等学外者に対しても積極的にアンケート調査を実施し、その周知状況を把握している。
- ・学校の目的や教育理念等をウェブサイトや学生便覧、学校要覧等に掲載しているほか、教室等にも掲示して学生や教職員に対してその周知を図っている。また、教育理念等を含む学校の紹介記事を地元の新聞紙上に長期に亘って連載するとともに、さらにそのパンフレットを印刷配布して、広く社会に公表している。

【改善を要する点】

- ・該当なし

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校では、学校創立時に「学校の目的」を定め、その後「教育理念」や「学習・教育目標」等が設定されて現在に至っている。また、準学士課程や専攻科課程及び各学科や各専攻ごとに「養成する人材像」を定めると共に、さらに「卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力」を定めることにより、学生が本校で学修する際の具体的指針を示している。

本校では、「学校の目的」を高等専門学校設置の趣旨及び学校教育法に定める高等専門学校の目的を踏まえて定めており、「教育理念」や「学習・教育目標」については、学校教育法に定める高等専門学校の目的との関連を意識して策定していることから、本校の目的は学校教育法の規定からはずれものではない。

本校では、先に行ったアンケート調査の結果から、教職員や学生等の構成員、また卒業（修了）生や企業等学外者に対しても、本校の目的、教育理念、学習・教育目標等が概ね周知されていることが明らかになっているが、さらに学生に対しては校内掲示や授業及びホームルーム等、また教職員に対しては研修等を通じてその周知徹底を図る取り組みも行っている。

また、本校の目的や教育理念、養成する人材像等は、学校のホームページや「学校要覧」等の配付資料及び地元新聞の連載記事にも掲載され、広く社会に公表されている。